



ミ化やエピ化と結晶化を融合させることで、高い光学純度のジアステレオマーやエナンチオマーを高収率で簡便に得る手法を開発した。(3) コングロメレートを形成するイソインドリノンの過飽和溶液にキラル渦光を照射することで、キラル渦の方向により得られる結晶のキラリティーが制御できることを見出した。キラル渦光を用いた動的結晶化の不斉選択性の制御を達成し、物理的な光のキラリティーを化学分子のキラリティーへと不斉転写することに成功した。これらの研究成果は、キラリティー化学の進展に大きく貢献するものであり、既に3つの国際会議で発表され、3報の原著論文として学術雑誌に掲載されている。

2020年1月29日に公開論文発表会・本審査委員会を開催し、論文発表と質疑応答及び審査が行われた。

2020年1月22日に本論文に関して剽窃チェックを行い、問題がないことを確認した。